

小・中学校 授業づくりシート	学年	中2	内容項目	相互理解・寛容
「 発達 の段階一覧表」を踏まえた				
指導観	内容項目の理解	実態把握	教材の活用	
	様々な価値と関わらせながら、多面的・多角的に考えることができる段階である。「いろいろなものの方や考え方がある」「寛容の心」「他に学び、自らを高めていく」ことを重点に指導する。	社会的組織全体の視点から物事を考えることができるようになる。「相互理解」「寛容」ということを理解していても、それを行動に表現することに難しさを感じていたり、それを実践しにくい現実があることに気付いたりする生徒もいる。	教材は「注文をまちがえる料理店」を活用する。認知症のスタッフとお客さんとの交流の様子から、「注文をまちがえる料理店」が大切にしている雰囲気や、企画者の思いをより具体的に知ることができるように、資料の文章だけでなく、店内の実際の様子を映像資料として提示する。	
ねらい	「注文をまちがえる料理店」での認知症スタッフやお客さんとのエピソード、企画に携わる人の笑顔の背景を考えることを通して、相手を受け入れる寛容な心を理解し、それを身の回りや所属する集団の中に広げていこうとする道徳的実践意欲や態度を育てる。			
手立て	「注文をまちがえる料理店」に登場する人々の様子や、その企画に携わる人の思いがより具体的に分かるように映像で教材を提示し、店に関わる人々の笑顔の背景にある願いを考えられるように発問を構成する。			
指導の手立ての具体（想定した児童生徒の反応から目指す姿までの過程）	<div style="display: flex; justify-content: space-between;">  <div data-bbox="427 792 1278 898"> <p>【映像資料③】 認知症スタッフとお客さんのやり取りの映像から気付いたことはありませんか？</p> </div>  </div> <div style="margin-top: 10px;"> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div data-bbox="368 913 783 965"> <p>みんな笑顔で接している。</p> </div> <div data-bbox="799 913 1278 1070"> <p>【補助発問】 笑顔なのは誰ですか。 なぜ笑顔なのでしょう。</p> </div> </div> <div style="margin-top: 10px;"> <div data-bbox="368 1003 783 1070"> <p>お客さん、店員さん。</p> </div> <div data-bbox="368 1093 1098 1160"> <p>料理を作っている人、見ている人も笑顔になる。</p> </div> <div data-bbox="368 1182 916 1240"> <p>認知症の人の家族も笑顔になる。</p> </div> </div> <div style="margin-top: 20px;"> <p>インタビューにあった「この料理店で起きたこと」とはどのようなことですか。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="316 1346 715 1413"> <p>相手の間違いを許すこと。</p> </div> <div data-bbox="746 1346 1426 1413"> <p>認知症の人を受け入れてちゃんと働けること。</p> </div> </div> <div style="margin-top: 10px;"> <p>「注文をまちがえる料理店」のような「おおらかな雰囲気（気分）」はあなたの周りにありますか。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="236 1563 874 1630"> <p>ないけど、そういう空間を作ってみたい。</p> </div> <div data-bbox="906 1563 1433 1630"> <p>教室をそういう場所にしてみたい。</p> </div> </div> <div style="margin-top: 10px;"> <p>【補助発問】 自分には何ができそうですか。</p> <div style="margin-top: 10px;"> <p>何ができるかわからないけど、相手を許すことから始めようと思った。</p> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="236 1832 719 1899"> <p>友達を受け入れようと思った。</p> </div> <div data-bbox="751 1832 1426 1899"> <p>クラスの中で何ができるか考えたいと思った。</p> </div> </div> <div style="margin-top: 10px;"> <p>注文をまちがえる料理店のような場所が世界中に広がってほしいと思った。</p> </div> <div style="margin-top: 10px;"> <p>相手の間違いを笑顔で許せるような人になりたい。</p> </div> </div> </div> </div></div>			

第2学年道徳科学習指導案

指導月日 令和〇年 〇月 〇日

授業者 〇〇 〇〇

- 1 主題名 おおらかな気持ちで「C-(9) 相互理解, 寛容」
教材名 「注文をまちがえる料理店」(東京書籍 新しい道徳2)

2 指導観

(1) 内容項目の理解

本主題は、中学校学習指導要領(平成29年告示)の次の内容を受けて設定されたものである。

第3章 特別の教科道徳 第2 内容 [相互理解, 寛容]

自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、それぞれの個性や立場を尊重し、いろいろなもの
の見方や考え方があることを理解し、寛容の心をもって謙虚に他に学び、自らを高めていくこ
と。

中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編では、中学校に入ると、自分の考えや意見と相手
との差異を理解しつつ、自分の考えや意見を伝え、相手の立場になって聴くことで相互理解を経験
していく時期であるとしている。学年が上がるにつれて、自分と他者との考えや意見の違いを恐れ
たり、人間関係に摩擦が生じたりして悩み孤立する。また、過剰に同調する傾向も生じやすくな
り、いじめのような問題に発展することもあり、安易に人の意見に合わせて現実逃避したり、自分
さよければよいという考えをもったりすることもある。

中学生は、一つの道徳的価値についても様々な価値と関わらせながら、多面的・多角的に考える
ことができるようになる発達の段階でもある。

以上のことから、「いろいろなもの見方や考え方がある」ことや、「寛容の心」「他に学び、
自らを高めていく」ことを重点に指導していきたい。相手を尊重することを踏まえて、相手の立場
を理解し、受け入れることから生じる寛容な心を理解し、寛容さをもって生活していこうとする態
度を育てたいと考えた。

(2) 実態把握

中学生は、社会組織全体の視点から物事を考えることができるようになる時期である。自分とは
異なる考えや立場を尊重し、受け入れることの大切さを理解している生徒もいる反面、自分の価値
観に固執して、相手を受け入れられない生徒もいることが予想される。

また、自分が所属する集団がどのような雰囲気であるか、寛容さが認められる場であるか等も考
えることができるようになる。

生徒は、「相互理解」「寛容」ということを理解していても、それを行動に表現することに難しさ
を感じていたり、自分が所属する集団がそれを実践しにくい場であることに気付いたりしていること
が想定される。

(3) 教材の活用

本教材は、ホール従業員全員が認知症である料理店「注文をまちがえる料理店」を扱った実話の
エピソードである。資料の文章だけでなく、店内の実際の様子を映像資料として提示することで、
認知症のスタッフとお客さんとの交流の様子から、「注文をまちがえる料理店」が大切にしている雰
囲気や、企画者の思いをより具体的に知ることができる。

認知症のスタッフに接するお客さんの姿から、認知症患者への考え方を変えるだけでなく、相手

の立場を理解し、相手の間違いを受け入れて、許すことができる寛容な心とは何かについて考えることができる教材であり、中学校段階にふさわしい教材であると言える。

3 本時の指導

(1) ねらい

「注文をまちがえる料理店」での認知症スタッフやお客さんとのエピソード、企画に携わる人の笑顔の背景を考えることを通して、相手を受け入れる寛容な心を理解し、それを身の回りや所属する集団の中に広げていこうとする道徳的実践意欲や態度を育てる。

(2) 手立て<教材提示の工夫> (授業づくりシート参照)

本時では、教材の「注文をまちがえる料理店」に登場する人々の様子や、その企画に携わる人の思いがより具体的に分かるように映像で教材を提示し、店に関わる人々の笑顔の背景にある願いを考えられるように発問を構成する。それによって、他者の過ちも個性として広く受け入れることが、よりよい社会を構成することにつながることを理解し、「自分とは異なる考えのよさを受け入れよう」「人の過ちを受け止め、認め合える社会にしていきたい」等、自分の所属する集団から寛容な社会を築いていこうとする態度を育て、自己を高めようとする意欲を持たせることができると考える。

(3) 指導過程 (別ページ)

(4) 評価

<生徒の評価>

- 相手を受け入れ、相手に対して寛容な態度で接することの大切さを、自分の所属する集団や、社会に広げ、多面的・多角的に考えようとしていたか。(多面的・多角的)
- 「注文をまちがえる料理店」のエピソードから考えることを通して、相手に対して寛容な態度で接することについて、自分との関わりで自分自身の生き方を振り返ろうとしていたか。(自分との関わり)

<指導方法の工夫に対する教師の評価>

- 導入において「映像資料①」を視聴して書いた感想と、終末において視聴した後に書いた感想において、変化が見られたかどうか。
- これからの自分にできることは何かについて、「相手を受け入れる」「認め合う」「間違いを許す」等、具体的な態度や言葉で表現し、これからの生活に生かそうとしているか。

(5) 準備物

教師：教科書、ワークシート、映像資料、PC、プロジェクター

生徒：筆記用具

(6) 板書計画 (ワークシートと連動し、書くことが把握できるようにする)

日付 /

- | | |
|------------------------------------|----|
| ① 泣いている人もいた | 感想 |
| ② 注文をまちがえる料理店
小国士朗さん | |
| ③ 本当は間違えたくない | |
| ④ 笑顔 | |
| 理由 その場にいる一人一人が笑顔になる
雰囲気を作っているから | |

指導過程

<手立ての具体>スライド資料を画面に提示することを中心に授業を進めていく。

段階	学習活動 ○基本発問 ◎中心発問 ▼補助発問	予想される生徒の反応	・指導上の留意点 ○評価 【 】評価方法
導入 12分	<p>1 学習への問題意識を持つ。</p> <p>○（映像を見て）分かったこと、気付いたこと、思ったことは何ですか。（ワークシート①に記入）</p> <p>▼5回目の演奏ですが、周囲の人はどんな様子でしたか。</p> <p>○注文を間違えるとどんなことが起こりますか。</p> <p>2 「注文をまちがえる料理店」について考える。</p> <p>○認知症のスタッフは自分自身のことをどう思っているのでしょうか。（ワークシート③に記入）</p> <p>▼自分が間違えてしまうことをどう思っていると思いますか。</p> <p>▼自分（あなた）が間違えてしまったら、どのように感じますか。</p> <p>※以下「授業づくりシート」指導の手立ての具体参照</p>	<p>・泣いている人もいた。</p> <p>・何回も間違えていた。</p> <p>・あまり上手じゃない。</p> <p>・頼んでないものが来てしまう。</p> <p>・食べたくないものを食べなければならぬのか。</p> <p>・もう一度作ってもらうのも申し訳ない。</p> <p>・腹が立つ。</p> <p>・間違えたこと自体に気付かない。</p> <p>・間違える度に不安になっている。</p> <p>・気にならない。</p> <p>・間違えてしまうことを恐れてしまう。</p>	<p>・映像資料①を提示する。</p> <p>・映像を見ている様子を観察する。</p> <p>・映像で流すのは5回目の演奏であることを押さえさせ、その上で周囲の人の様子はどうだったかを確認する。</p> <p>・Aさんは認知症であり、「注文をまちがえる料理店」のスタッフであることを伝える。</p> <p>・ワークシート②に「注文をまちがえる料理店」と記入する。</p> <p>・映像資料②を提示する。</p> <p>・「注文をまちがえる料理店」はホールで働くスタッフ全員が認知症であることを確認する。</p> <p>・注文をまちがえる料理店について、概要を説明する。情報交換をする形で意見を交流させる。</p> <p>・認知症の症例や、患者数などの現状を説明する。</p> <p>・自分や自分の家族も認知症になってしまう可能性があることを押さえる。</p> <p>・認知症の患者自身も失敗を恐れていることを確認する。</p>
展開 28分	<p>3 店に関わる人の「笑顔」の背景を考える。</p> <p>○スタッフとお客さんのやり取りの映像から気付いたことはありますか。</p> <p>▼笑顔なのは誰ですか。</p> <p>▼なぜ笑顔なのでしょう。（ワークシート④に記入）</p>	<p>・みんな笑顔で接している。</p> <p>・認知症スタッフとお客さん</p> <p>・サポートスタッフ</p> <p>・料理人</p> <p>・認知症スタッフの家族</p>	<p>・映像資料③を提示する。</p> <p>・認知症スタッフが間違えることに対して、お客さんは笑顔で接していることを押さえる。</p> <p>・お客さんだけでなく、サポートスタッフ、シェフ、その場にいる人全員が笑顔であるこ</p>

	<p>○（企画者の言葉から）「この料理店で起きたこと」とはどのようなことですか。</p> <p>▼この料理店で起きたことは、それ以外でも起こすことは可能ですか。</p> <p>◎「注文をまちがえる料理店」のような「おおらかな雰囲気（気分）」は、あなたの周りにありますか。</p> <p>▼自分には何ができそうですか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・スタッフもお客さんも笑顔でいること。 ・相手の間違いを許すこと。 ・認知症の人も受け入れられてちゃんと働けること。 ・ないけど、そういう空間を作りたい。 ・教室をそういう場所にしたい。 ・何ができるかは分からないけど、相手を許すことから始めようと思った。 ・友達を受け入れようと思った。 ・まずはクラスで何ができるか考えたいと思った。 	<p>とを押しさえる。</p> <p>○多面的・多角的</p> <p>【発言・話し合い】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認知症であることや、間違いをばかにするような笑いではなく、他者を受け入れた、温かい笑いであることを押しさえる。 ・映像資料④を提示する。 ・グループで話し合わせる。 ・「注文をまちがえる料理店」に倣って他の町や国でも店を出したいという希望が多数届いていることを伝える。 <p>○自分との関わり</p> <p>【発言・ワークシート】</p>
<p>終末10分</p>	<p>4 本時で学んだことをまとめる。</p> <p>○最初に見た映像をもう一度見て、改めて分かったこと、気付いたこと、思ったことありますか。</p> <p>▼今日の授業で学んだことを書きましょう。（ワークシート⑤に記入する）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「注文をまちがえる料理店」のような場所が世界中に広がってほしい。 ・相手の間違いを笑顔で許せるような人になりたい。 	<p>※再度、映像資料①を提示する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート①～④に書かれた情報を参考に本時の授業の感想を書かせる。

4 参考・引用文献

- ・「新訂新しい道徳」東京書籍
- ・「注文をまちがえる料理店」小国士朗／あさ出版
- ・「注文をまちがえる料理店の作り方」小国士朗・森嶋夕貴／方丈社
- ・注文をまちがえる料理店公式ホームページ

5 その他

- ・映像資料① 注文をまちがえる料理店ホームページ「当日のイベントの様子」2' 45～4' 45
- ・映像資料② 注文をまちがえる料理店ホームページ「当日のイベントの様子」0' 00～2' 00
- ・映像資料③ 注文をまちがえる料理店ホームページ「当日のイベントの様子」2' 05～2' 40
- ・映像資料④ 注文をまちがえる料理店ホームページ「注文をまちがえる料理店とは」0' 55～1' 45

